

小学校高学年向き

★: シリーズあり ☀: 大型絵本あり

「かえるの竹取ものがたり」

★

請求記号：アカ

文／俵万智
絵／斎藤隆夫
福音館書店 2014年



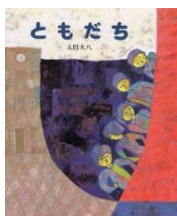
登場人物たちがかえるで描かれた「竹取物語」。平易だがくだけすぎず、古典の雰囲気を残した文章、細密で生き生きとしたかえるたちの絵は、絵巻物のよう。古典作品への第一歩として、高学年だからこそ楽しめる絵本。

絵本が大きく、お話自体も長いので、絵本を安定して持てるように注意が必要。
シリーズで「かえるの平家ものがたり」もあります。

「ともだち」

請求記号：アカ

作・絵／太田大八
講談社 1985年



ぼく、やまぐちよしはる。クラスで1番小さい。算数の天才のけいこちゃん、図画が得意なまつだくん、おもしろい声で笑ういちむらさん、ぼくのクラスメイトたち。それから20年。けいこちゃんは魚屋のお嫁さんに、まつだくんは絵の道に。そして、ぼくは・・・

卒業間近の6年生にぜひ読んであげたい絵本。

「いっしょだよ」

請求記号：アカ

写真・文／小寺卓矢
アリス館 2012年



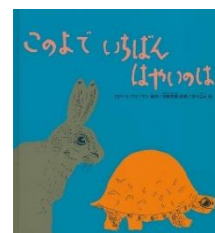
「いっしょ」をキーワードにつづられる文章は詩のよう。森の植物や昆虫の美しい写真とシンプルな言葉が響きあう。

「おはなはいっしょ ふたいでいっしょ」等、前半部分は、低学年向けに感じるかもしれないが、「いろいろでいっしょ」という多様性へのメッセージは、高学年の子どもたち向き。

「このよでいちばんはやいのは」

請求記号：アカ

原作／ロバート・フロマン
翻案／天野祐吉
絵／あべ弘士
福音館書店 2011年



チーターよりも、バショウカジキよりも、ハリオアマツバメよりも新幹線よりもはやいものってなんだろう？

次々と速いものが登場し、音、人工衛星、光、そして最後に出てくるのが、人間の想像力。最後のページの文章も読んでください。

「100万回生きたねこ」

請求記号：アカ

作・絵／佐野洋子
講談社 1977年



100万回も死んで、100万回も生きた、とらねこがいました。ある時は、船乗りのねこに、ある時は小さな女の子のねこに。ある時、1匹の白ねこと出会い、子ねこが生まれました。

白ねこの死によって初めて泣いたねこ。平易で、飾りのない文章だからこそ、生と死について、高学年の子どもたちにしっかり届く。読み手が感情的になりすぎないように注意を。

「富士山にのぼる」

請求記号：アカ

写真・著／石川直樹
教育画劇 2009年



世界を旅する冒険家・写真家である著者が、冬の富士登山を記録しながら、「富士山」を様々な角度から伝える写真絵本。

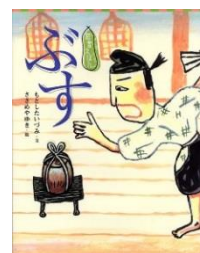
登山の過程だけでなく、富士山を中心とした自然の循環も知ることができる。読み聞かせはもちろん、一部を紹介したり、ブックトークにも利用できる。

「ぶす」

★

請求記号：アカ

文／もとしいづみ
絵／ささめやゆき
講談社 2007年



狂言「附子」の筋書きをもとにした絵本。黒砂糖を猛毒の附子と嘘をつき、留守中に食べられないようにしていた主人。

しかし、召使の太郎と次郎は、全部食べてしまいます。二人は、上手い嘘を考え、主人に怒られないように作戦を立てます。

お話の滑稽さが絵によく表れていて、子どもたちに伝わりやすい。

「ホームランを打ったことのない君に」

請求記号：アカ

作／長谷川集平
理論社 2006年



ここがチャンス、という所でホームランを打とうと思って大振り、ボテボテのセカンドゴロ。そんなぼくは、野球の得意な仙ちゃんと久しぶりに会った。ホームランってどうやったら打てるの？

読み聞かせや絵本から興味が離れていく高学年の子どもたちへ、こんな絵本もあるのかと知ってもらいたい1冊。野球だけでなく、スポーツをしている子は、主人公に共感できるのでは。

「ルリユールおじさん」

請求記号：アカ

作／いせひでこ
理論社 2006年



本を作る職人（製本職人）のことを、フランスでは「ルリユール」と呼びます。大切な植物図鑑を直してもらおうと、ソフィーは、ルリユールおじさんを訪ねます。本がどうやって出来るのか、おじさんの魔法のような仕事を見てみましょう。

現在購入できるのは、2011年に講談社から出版されたものです。

「ウェズレーの国」

請求記号：ミドリ

季節：夏

作／ポール・フライシュマン
絵／ケビン・ホークス
訳／千葉茂樹
あすなろ書房 1999年



ちょっと変わり者のウェズレーが夏休みに始めたのは、文字を発明し、作物を収穫し、自分だけの文明をつくること。

色鮮やかで、本も大きいので遠目がきく。夏休み前に読んであげたい1冊。

「おじいちゃんの手」

請求記号：ミドリ

文／マーガレット・H. メイソン
絵／フロイド・クーパー
訳／もいうちすみこ
光村教育図書 2011年



器用でたくましいおじいちゃんの手。ほんの少し昔まで、パン工場で働いていたおじいちゃんの手は、パンに触ることさえ許されていなかった。「黒い手だ、白い手だと区別するのはやめよう」と、おじいちゃんは仲間たちと訴えた。

「手」というモチーフを通して、差別と戦ったおじいちゃんを描く、実話に基づいた絵本。

「おとうさんのちず」

請求記号：ミドリ

作／ユリ・シュルヴィッツ
訳／さくまゆみこ
あすなろ書房 2009年



戦争で故郷を追われたぼくたち家族。遠い東の国へやってきて、パンひとつ買うのもやっとなのに、お父さんはパンを買わずに世界地図を買ってきたんだ。

壁一面の世界地図を見て、想像をふくらませ、世界を旅する魔法の時間を手に入れたぼく。作者・シュルヴィッツの実体験をもとに描かれた絵本。

「ジャイアント・ジャム・サンド」

請求記号：ミドリ

ぶん・え／ジョン・ヴァーノン・ロード
やく／安西徹雄
アリス館 1976年



チクチク村に400万匹の蜂の大群がやって来た。困った村の人々は、巨大なジャムサンドを餌にして、蜂を捕まえることに。小山のようなパンをトラックで運び、トラクターでイチゴジャムをぬって・・・

低学年から読み聞かせできるが、落ち着いた色合いや絵柄は、絵本に抵抗のある高学年の子どもたちにも受け入れられやすい。

「しろいうさぎとくろいうさぎ」

請求記号：ミドリ

ぶん・え／ガス・ウィリアムス
やく／まつおかきょうこ
福音館書店 1965年



2匹のうさぎは、広い森に仲良く住んでいました。いつも楽しく遊んでいる2匹ですが、ある日、くろいうさぎが悲しそうな顔をしていました。「ぼく、ずっとかんがえてたんだ」「いつもいつもいつまでも、きみといっしょにいられますようになってさ」

低学年から読める絵本だが、2匹のうさぎを通して描かれる繊細な心の動きを感じられるのは、高学年から。

「シロナガスクジラ」

請求記号：ミドリ

さく／ジェニ・テズモンド
やく／榎本由紀子
BL出版 2016年



シロナガスクジラは地球上で一番大きな生き物。体重は約160トン。カバ60頭分くらいで、舌だけで3トンもある。30分間、息をしないでいられるんだって。

シロナガスクジラの生態を知ることができる科学絵本。子どもたちに話しかけるような文体、ユーモアたっぷりの例えが楽しい。高学年の子どもの好奇心を満たしてくれる1冊。

「ストライプ たいへん! しももようになっちゃった」

請求記号：ミドリ

文と絵／テヴィッド・シャン
訳／清水奈緒子
セーラー出版 1999年



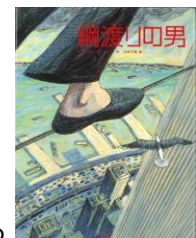
カミラは、いつも他の人の目を気にして「みんなと同じでいたい」と思っている女の子。けれど、ある朝起きたら、カミラの体は虹のようなストライプになっていたのです。

高学年の子どもたちがクスッと笑いながら、主人公に共感できるお話。

「綱渡りの男」

請求記号：ミドリ

作／モーティカイ・ガースティン
訳／川本三郎
小峰書店 2005年



大道芸人のフィリップ・プティは、完成間近のツインタワーを見て思いました。「ロープを張るには絶好の場所だ」彼はタワーの間を綱渡りしようとして計画し、実行したのです。

1974年8月に実際に起こった出来事であることを伝えてから読むとよいかもしれません。読み聞かせから離れていきがちな高学年の男の子どもたちにおすすめ。

「メアリー・スミス」

請求記号：ミドリ

作/アンドレア・ユーレン
訳/千葉茂樹
光村教育図書 2004年



ゴムのチューブに豆をこめ、吹いて飛ばす職業とは・・・目覚まし屋！イギリスに実在した目覚まし屋、メアリー・スミスの物語。

町の人々を起こしてまわるメアリー・スミスが、**ずんずん歩くりズムに合わせ、読み手もリズムカルに。**

「ルピナスさん 小さなおぼあさんのお話」

請求記号：ミドリ

さく/バーバラ・クーニー
やく/かけがわやすこ
ほるぷ出版 1987年



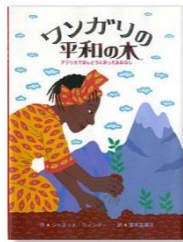
「世の中を、もっとうつくしくするために、なにかしてもらいたいのだよ」小さい頃、おじいさんにこう言われたアリス。大人になり、図書館で働き、世界中を旅し、世の中をもっとうつくしくするために始めたこととは。

将来について考え始める高学年の子どもたちへ、特別ではない、ひとりの女性の人生の尊さを語り伝えるように読んであげてください。

「ワングリの平和の木」

請求記号：ミドリ

作/ジャネット・ウィンター
訳/福本友美子
BL出版 2010年



豊かだったケニアの自然が失われていくことに心を痛めたワングリは、村の女性たちと苗木を植え、村に緑を取り戻す活動を始めます。人々からばかにされても、逮捕されても、ワングリは苗木を植え続けます。

2004年にノーベル平和賞を受賞したワングリ・マータイの伝記絵本。彼女の活動を物語としてわかりやすく伝えてくれる。

「こめんぶくあわんぶく」

請求記号：チャ

ぶん/松谷みよ子
え/太田大八
ほるぷ出版 1986年



あるところに、こめんぶくという女の子がいた。継母とその娘のあわんぶくと暮らしているが、いつも邪魔者扱いされている。

日本版シンデレラ。魔法使いは山姥、かぼちゃの馬車は白馬。子どもたちに何も説明をせずにこの本を読むと、シンデレラと似ていることには案外気がつかないが、とくに読む前に説明の必要はない。日本の昔話として楽しんでもらおう。

「天の火をめすんだウサギ」

請求記号：チャ・ミドリ

さく/ジョアンナ・トゥロートン
やく/山口文生
評論社 1987年



昔、この地上にまだ「火」がなかったころ。冬が近づき、「だれが火をとってくる？」と森の動物たち。いたずら好きで賢いウサギが天の火を取りに行くことに。上手く火を盗んだウサギは、その火をリスへ、カラスへと渡していき、ついに地上に「火」をもたらしした。

火の由来譚。火を盗んでからの後半は、スピード感を大切に。秋から冬の時期に読むとよい。

「急行「北極号」」

請求記号：ミドリ

季節：クリスマス

絵と文/C. V.
オールズバーク
訳/村上春樹
あすなろ書房 2003年



クリスマス・イブの夜。サンタクロースを待っていた少年の前に現れたのは、急行「北極号」。北極点につくと、最初にサンタクロースからプレゼントを受け取れる子どもを「北極号」に乗っている中から選ぶという。

横長の絵本の端に文章がレイアウトされているため、文字がやや見づらい。下読みをしっかりと。

「ちいさいおうち」

請求記号：ミドリ

作／バージニア・リー・バートン
訳／石井桃子
岩波書店 1979年



静かないなかに、ちいさいおうちがたっていました。自然に囲まれ、たいへんしあわせでしたが、工場がたち、電車が通って、にぎやかな町になると、自然に囲まれていたところを思い出してさみしくなるのです。

人間の生活の中で、自然がとても大切な役割をもっていることを再認識し、自分のまわりにある自然にも興味をもつきっかけになる。

「英語で読める『大きな木』」

請求記号：ミドリ

作／シェル・シルヴァンスタイン
作／シルヴァンスタイン・シェル
訳／村上春樹
東京あすなろ書房 2023年



いつでもそこにあるりんごの木。成長して変わっていく少年。それでも木は少年に惜しみなく愛を与え続けた。

2010年に村上春樹さんの訳になって十数年。今度は英語と訳文を併記されました。原題は「The Giving Tree」原文と照らし合わせることで深く感じて楽しんでください。

「海のアトリエ」

請求記号：アカ

作／堀川理万子
偕成社 2021年



おばあちゃんの部屋に飾ってある女の子の絵。「この子は誰？」と聞いてみると、おばあちゃんはこの頃の特異な思い出を話してくれた。

おばあちゃんからわたしへ、素敵な記憶が受け継がれる瞬間。あなたはこれから大事な人に出会い、ずっと覚えていたい日が、きっとあなたをまってるわと思わせてくれます。

「ぼくは川のように話す」

請求記号：ミドリ

文／ジョーダン・スコット
絵／シドニー・スミス
訳／原田勝
偕成社 2021年



学校でもうまく話せず落ち込んでいる僕を、お父さんは川に連れて行って…吃音のある詩人を支えた少年の日の出来事。

「川のように話す」どの場面を読むときも、静かにゆっくり。しっかりと向き合いながら読んでもらいたい1冊です。

「あるヘラジカの物語」

請求記号：アカ

原案／星野道夫
絵と文／鈴木まもる
あすなろ書房 2020年



アラスカのヘラジカの群れに見知らぬオスが近づいてきた。群れを率いるオスとの戦いが始まると互いの角がからまりはずれなくなって…写真から生まれた、大自然のドラマと生命の繋がりの物語。

アラスカの自然と、そこに生きる動物たちの生命力に胸を打たれる一冊です。

「せんそうがやってきた日」

請求記号：ミドリ

作／ニコラ・テイビス
絵／レベッカ・コッフ
訳／長友恵子
あすなろ書房 2003年



日常に突如襲いかかり、すべてを破綻し、心の中にまで入りこみどこまでもつきまとう戦争。その戦争を振り払ってくれたのは子どもたちの行動だった。

世界には2250万という数の難民がいます。安全な場所にいる私達にできることはあるのでしょうか？戦争がおこっている今、考えるきっかけにしたい。